

くすのき

Kusunoki



会館にて

CONTENTS

● Feature Story — 社会で活躍する女性の育成を目指す改革プロジェクト始動

● SHOIN LABO — 「自覚と意欲を引き出す心理支援」高橋 裕子先生

100年の伝統を継承し、 進化する樟蔭学園

1

● こもれびの窓 — 「思いやりのある子どもに育てほしい」秋山 佐智子さん

5

● NEWS — 「樟蔭ホームカミングデー2012開催!」ほか

7

● Information — イベントのお知らせ

12

● CLUB NAVI — 高校バスケットボール部

13

● WingBEAT! — 「大学の魅力は、私たち学生が伝えます!」●●●●●さん

14

● FORUM — 皆様とのコミュニケーションスペース

15

● 平成23年度決算概要報告

17

● リレー★コラム 松井 正先生 & STAFF@SHOIN 長門 裕明さん

19



はばたけ、知性。



Feature Story
巻頭特集

100年の伝統を継承し、進化する樟蔭学園

社会で活躍する自律した女性の育成を目指し、大規模な改革プロジェクトが始動します



シンボル棟
2014年9月完成予定

新校舎棟
2015年3月完成予定

新体育館
2014年2月完成予定

※デザイン等はイメージです。
小阪キャンパス再整備計画 完成予想図
(2012年11月9日現在の計画です)

創立100周年に向けたプロジェクト始動
～キャンパス統合と大学院新専攻 設置～

学校法人樟蔭学園
理事長 森 眞太郎



樟蔭学園は、2017年に創立100周年を迎えます。これまで、95年にわたり、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院からなる女子の総合学園として、時代とともに進化し、発展を遂げてまいりました。2017年の創立100周年は、単なる節目ではなく新たな100年に向けたスタート地点です。それに向けて、2013年には「大学院の新専攻の設置」を、2015年には小阪キャンパスに教育リソースを集結させる「キャンパス統合」などの大規模なプロジェクトを予定しています。樟蔭学園は、社会で活躍する女性を育成する学園として、これからも女子教育の更なる発展に尽力して参ります。学園の理念をご理解いただき、ご支援・ご協力を頂戴できますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



小阪キャンパス整備計画
快適で学びやすいキャンパスを目指して

1

すべての知的・人的資源の集結による
学生のための快適な学習環境の創造

2015年4月をめどに、小阪キャンパス(東大阪市)に新校舎を建設し、現在の関屋キャンパス(奈良県香芝市)にある大学の組織・機能の全てを小阪キャンパスへ統合する計画が、現在進行中です。この統合により、二つのキャンパスに分散していた教育リソースを一つのキャンパスへ集結させ、これまで以上に広い学問領域をカバーすることや、さらに質の高い教育サービスの提供が可能になります。また、キャンパスの再編で最も重視しているのは、学生が快適に過ごせるキャンパス作りです。新しい施設・設備の整備といったハード面での強化のみならず、学生生活におけるさまざまな問題



※デザイン等はイメージです。

などを、学生に寄り添いながら支援解決に導くサポートスタッフを配置するなど、ソフト面でも大きく充実を図り、学生の学びとキャンパスライフの両面がいっそう充実するキャンパスを実現します。たとえば、授業で理解できなかったところや、レポートの書き方、資料の探し方など、学びに関するどんな相談にも対応するラーニングサポートセンター(仮称)を開設する予定です。また、資格取得のサポートや就職に関する相談体制を整えたり、同級生や先輩・卒業生と情報交換するスペースを作ったりし、卒業後の希望の進路実現へ向けたサポートを強化します。これまで以上に気軽に相談しやすい空間を実現し、学生生活がより充実するよう、サポートします。

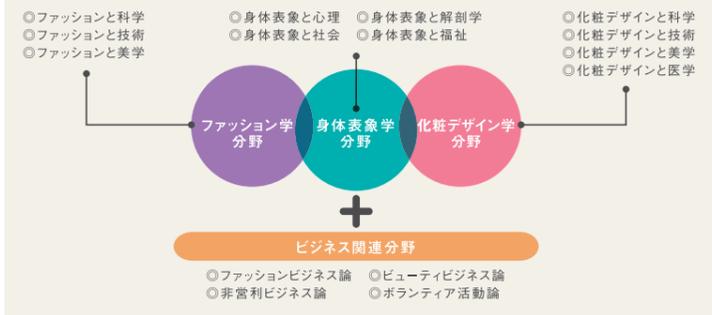
社会に役立つ化粧ファッション学の
確立を目指して

2

日本初の大学院
「化粧ファッション学専攻」の設置

2013年4月、化粧学とファッション学を統一的に研究できる日本で初めての大学院「化粧ファッション学専攻」(修士課程)を開設します。樟蔭学園はこれまで、樟蔭女子専門学校の創立当初から被服学を学ぶ技芸科を設置し、近年では2007年に大学として初の「化粧学」の専攻を、2010年には美容師受験資格取得を可能にした「美容」コースを設置するなど、被服学・化粧学領域における「先駆者」として独自の発展を遂げてまいりました。そんな樟蔭学園が創立100周年を前に、さらなる学び領域の拡大を行い、学生のみならず業界で活躍中の社会人を対象に、キャリアアップや職域の拡大、新領域の発見へ導く環境作りを行います。

化粧ファッション学の分野



本専攻は、化粧やファッションなど、私たちの身体の装いに関する事柄を総合的に研究することを通して、生活の質の向上と産業の発展、そして文化芸術の分野で活躍できる人材の養成を目的としています。これまで、このような総合的な視点から化粧ファッション学を考えた大学院は、存在しませんでした。「先駆者」である樟蔭が、日本における化粧学・ファッション学研究の中心機関としての役割を担うため、関連業界で活躍する社会人の方々への再教育と研究の場を提供し、化粧研究・ファッション研究の高度化を目指します。

【大学院化粧ファッション学専攻 特設サイト】
http://cheer.osaka-shoin.ac.jp/beauty_fashion/index.html

学内外で精力的な研究活動 「自分の意志で行動を起こす気持ち」を 引き出す心理支援

高橋 裕子 先生

大阪樟蔭女子大学
心理学部臨床心理学科 准教授・学科長
大学院人間科学研究科臨床心理学専攻 准教授



臨床心理士として心理学部臨床心理学科の准教授を務める傍ら、学外の心理支援活動にも精力的に取り組む高橋裕子先生。慢性疾患や難病の方、そのご家族を対象としたグループや個人の心理療法、心理的支援を実践・研究するため、病院や保健所の臨床活動を現場でサポートしています。

体の病気も心の状態が影響する 療養のための生活コントロールをサポート

「臨床心理学は、心理学の中でも、特に『個別性』を大事にする学問です」。高橋先生の言う「個別性」とは、性格や性質、育った環境、家族との関係など、その人のパーソナリティそのもののこと。「その人がどのように生きてきたか、そこに关わる問題を取り扱う学問が、臨床心理学だと認識しています」
精神科病院で、実務からキャリアをスタートした高橋先生は、やがて総合病院で心理士として慢性疾患の患者をサポートする職務に就きます。「慢性疾患は直ちに命に関わる病気ではない反面、療養期間が非常に長くなるので患者さんのストレスがとても大きくなります。例えば糖尿病の場合、食事療法を毎日三度の食事で実践しなければなりません、これを何年も続けることは大変な苦勞です。それでも、患者さんが自分で自分の生活全体を療養のためにコントロールできるように心理的な面からサポートすることが、臨床心理士の仕事になります」
体の病気にも、心の状態が大きく影響します。「患者さんの心が療養

に向いていかないと、自発的な療養行動につながりません」。そこで、高橋先生が重視しているのがグループミーティングです。

グループで自覚と意欲を引き出す 患者にふさわしい療養に向けて

高橋先生は医療機関で、同じ病気を治療中の人々が集まるグループミーティングを開き、会を進行させる「ファシリテーター」を務めています。例えば、糖尿病患者のグループミーティングでは、一人ひとりの患者が自身の病歴や療養生活、食事制限などについて話します。自分が糖尿病になった経緯や治療について何度も話しているうちに、患者には改めて「自分が病気である」という自覚が生まれます。そして、他の患者の話に共感したり、自分より努力している人の話を聞いて「自分も頑張ろう」と思ったりしながら、心を療養行動に向けていきます。
このミーティングにはナースなども参加し、食事制限などに苦しむ患者の言葉を聞くことで、患者への理解を深める場にもなっています。時には「食事制限を破ってしまった」という告白が聞かれることもあるそうですが、高橋先生はその情報を担当医療チームと共有します。「告げ口してドクターに叱ってもらうためではありません。今の食事制限が守れない状況にあるなら、もっとその患者さんに合った療養を考えていただく必要があるのです、そのための共有です。グループミーティングは、患者さん本人の自覚と、自分の意志で療養行動を起こす気持ちを引き出すための場なのですから」



コミュニケーションの交通整理

限られた機会を大切にしたい

慢性疾患だけでなく、高橋先生は慢性疾患やさまざまな障がいを持つ子どもを育てるお母さん方や、不妊治療を受ける女性を対象とした心理サポートも行っています。さらに、グループミーティングだけでなく、個別のカウンセリングも行います。「保健所の在宅支援事業として、訪問カウンセリングを行っています。カウンセリングに来たくても来ることができない患者さんのお宅に伺い、心理的支援を行うためです」。訪問先で高橋先生は、患者本人と家族とで別々に面接を行い、両者をサポートします。その後、全員で話す場を設け、患者と家族の意思疎通をフォローする役割も果たします。「両者のコミュニケーションの交通整理ですね。患者さんからお聞きした話の中に、ご家族に伝えた方が良いと思うことがあれば、ご本人に『ご家族と一緒に話していいですか』とお伺いして、全員で話すときに話題にします」
この訪問カウンセリングには、その患者に関わる専門家をサポートする意味もあります。「訪問事業は費用の問題もあり、何度も継続してカウンセリングに当たることができません。そこで、一度の訪問で状況を判断して、その後継続的にその患者さんを担当される専門家の方にお伝えします」。病院外での心理的支援ができる機会は限られています。在宅で療養する患者のために、高橋先生は限られた機会を大切にされています。

学生に臨床の大切さを伝えるために

現場で得たものを学生へ還元

高橋先生がここまで臨床の現場を大切に理由をお聞きすると、「現場感覚を失うと、自分の中のどこかが錆び付いてしまって、学生に臨床の感覚を伝えられなくなるから」。実際、高橋先生のゼミに来る学生は、医療機関での臨床現場を希望する学生が大変多いとのこと。高橋先生が日々培っている経験や現場感覚は、そのまま学生への教育に活かされています。ただ、授業以外の時間は大学のカウンセリングセンターでの仕事もあり、いつも「研究室にいない」と言われてしまうとか。「でも、私は臨床をしっかりと続けていき、現場で得たものを学生に還元していきたい」と高橋先生。先生の臨床心理士としての活動は、今後も学内外を問わず広がっていきそうです。

たかはし ゆうこ
2001年、関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程教育学専攻単位取得満期退学。
臨床心理士・精神保健福祉士・グループサイコセラピスト。医療法人松柏会榎坂病院勤務を経て、2001年に本学専任講師。2003年から本学大学院講師も兼任し、2005年には准教授に就任。カウンセリングセンター運営委員会委員の他、現在本学心理学部臨床心理学科長も務める。



臨床心理士を目指す学生へ

深く自分を知り、自分を最大に活かせる臨床心理士になってほしい

高橋先生は言います、「私はいろんな臨床心理士がいていいと思っているんです」と。「よく臨床心理士に向いているのはどんな人かと聞かれますが、こうでなければということはないと思います。人間が好きで、人の心に関心があり、臨床家になるための訓練を重ねていける人であれば可能性はあります。もちろん、基本的なスキルや知識は身につけてほしいですけどね」。さらに「どんな臨床心理士を目指すかを考えつつ、学生時代にいろいろな経験をして視野を広げてほしい」と話します。
臨床心理学では1回生は心理学の基礎を学び、2回生からは、心理検査や心理療法について実践的に学ぶことができます。検査の手順はもちろん、検査結果から人の心の状態を読み解く「解釈」まで学んでいきます。「科学的な考え方を身につけてはじめて、抽象的な人の心の理解に踏み込んでいく」という教育プロセスは、自身の経験上とても有益だったと高橋先生は言います。
最後に、高橋先生から学生へ向けてのメッセージをお聞きしました。「臨床心理学を勉強するということは、“自分を知る”こと。それは、他者を理解する手がかりを自分の中に得ることであり、他者との関係を通して更に深く自分を知ることにつながります。臨床を通して成長できる臨床心理士になってほしいと思います」





幼稚園の園長として、子どもたちの成長を温かく見守る毎日

「一番の願いは、
思いやりのある子どもに
育ってくれること」

秋山 佐智子さん(旧姓・塚本)

八戸の里幼稚園 園長
大阪府東大阪市出身 1969年度大阪樟蔭女子大学学芸学部児童学科(現 児童学部児童学科)卒業

あきやま・さちこ ● 中学校から樟蔭に入学し、大学卒業後、学校法人大阪錦城学園八戸の里幼稚園(東大阪市中小阪)に入職。2003年から園長を務める。母で前園長の塚本貞子さんも樟蔭の卒業生(1943年度、女専卒業)。

秋山さんが園長を務める八戸の里幼稚園は、小阪キャンパスからも近く、1950年創立で一昨年に60周年を迎えた私立幼稚園です。異なる学年の子どもたちが一緒に過ごす「異年齢交流」や、植物の栽培・収穫体験を通じた食育などにも取り組み、子どもたちが情操豊かにのびのびと育つ教育を実践されています。中学校・高校・大学の10年間を樟蔭で過ごされた秋山さんに、学生時代の楽しい思い出、先生方との出会い、そして「大切な宝」という子どもたちへの思いを話していただきました。

家族で守り立ててきた幼稚園

「人として大切なことも教わりました」

八戸の里幼稚園は秋山さんのご両親が創立され、お父さまが初代園長を務められました。「私がお父さんっ子で、子どものころには父が幼稚園に行く時にいつも一緒について行っていました。『大きくなったらお父さんの後を継ぐんだ』なんて言っていたみたいです。自分では全然覚えていないのですが……」

そのお父さまは秋山さんが大学3回生の時に惜しくも亡くなり、その後はお母さまの塚本貞子さんが園長に就任。秋山さんはずっと「先生」という職業にあこがれ、小学校の先生になりたかった時期もありましたが、卒業したらすぐにこの幼稚園で勤め始めました。

「園長の娘だからといって特別扱いはされることが一切なく、他の先生と同じように奮闘してきました。母からは、人に対する思いやりや、先生同士の気持ちのつなげ方など、人として大切なことを教わりました。現在母は、足が不自由になったので子どもたちと遊ぶのはとても無理ですが、子どもたちの元気な姿を見守るのが楽しみらしく、大園長として毎日のように園に来ています」



秋山さんは5人姉妹ですが、実は5人全員が樟蔭の児童学科出身。卒業後、それぞれ別の所に勤めておられましたが、16～17年前からは全員がこの幼稚園で勤務されています。「姉も妹たちも、給食の補助や経理などさまざまな仕事で園を守り立て、大変さを共有してくれています。安心感があり、姉妹のありがたさを感じます」

子どもたちへの大きな愛情

「相手の気持ちがわかる子どもに育ってほしい」

「本当に子どもって宝やなあ、大切なものやなあいつも感じています。やっぱり子どもはすごくかわいいし、何かできるようになる様子を見ているのがうれしい。毎日の仕事がとても楽しいので、私にはこの仕事合っているんだろうと思います」
優しい笑顔で子どもについて語る秋山さんですが、実はクラス



担任だった頃はお母さん方から「厳しい先生」「怖い先生」と言われていたのだとか。「私自身が大家族で育ち、ひいおばさんから行儀を厳しくしつけられて育ったからかもしれません。そのおかげでよかったこともたくさんあったので、私が教える子どもたちも小さいうちからそうして育ててあげたいという思いがありました」

子どもたちに対して一番強く願うのは「人の気持ちを感じられる子どもになってほしい」ということ。「今の世の中、人と人との接する形が変わってきていますよね。たとえば、メールでやりとりしてしまうと顔の表情も何も見えないし、相手が怒っているかどうかさえわからない。そういう中で育ってきている子どもって、結構厳しい言葉も平気で言ったりするんです。だから子ども同士でけんかしたときも、形だけ謝るんじゃなくて、『お友達は今どんな気持ちでいると思う?』と問いかけるようにしています。人に対する気持ちは「教える」のではなくて自然に出てくるものですから」最近では、かつての教え子の子どもが入園することも多いそうです。「保護者の方から『私もこの幼稚園の卒園児なんです』と言われると、『あんなに小さかった子がお父さん、お母さんになったのね』と、昔の思い出がよみがえってきて感慨にふけったり……。そういう出会いが、とてもうれしいです」

大きな自信になった大学での体験と、先生方との大切な出会い

「私がやります!」大学祭の委員長に立候補

「中学校から樟蔭にいたこともあって、のんびりゆったりとした自由な学生生活を送りました」。それでも大学3回生の時には大学祭の委員長を務めることに。「それまではあまりそういうことに積極的にかかわってこなかったのですが、なかなか立候補する人がいなかったのだから、『じゃあ私がやります!』って言ったんです。また、その頃に亡くなったお父さまに対しても「父も喜んでくれるんじゃないかな」という思いがあったとか。「本番のあいさつで舞台上に立った時に、それまで『見に行くよ』とも何とも言っていなかった母が、前の方に座っていたのには驚きました。やっぱり心配してくれていたんでしょうね。必死でしたが、すごく良い刺激になりました。自信もついて、それからは何でも自分からやろうとする気持ちが持てるようになりました」

卒業後も続いた先生方との関係

実習先は樟蔭幼稚園でした。「当時の幼稚園の主任はとっても怖い先生でしたけど、卒業してからもずっとよい関係を築くことができました」

た。また、研究会では児童学科にいらっしゃった名倉啓太郎先生にもお世話になり、いろいろと教えていただきました。幼稚園の現場にいて、大学生の時にはあまり接点のなかった先生とも、さまざまなつながりが持てたことを大変感謝されています。

夢に向かって積極的に進んでほしい

「最初から完璧でなくてもいいんです」

最後に、夢に向かって力強く進んでいくことの大切さを語ってくださいました。

「大学生として『これを学ぶんだ!』っていう意気込みも大事ですが、4年間ずっと緊張してしまうのもしんどいと思います。そうかといって、なんとなく授業を受けて卒業してしまうよりは、何か楽しいものや目標を見つけられたらいいですね。私も樟蔭で学ばせてもらって本当によかったと思っています。

幼稚園教諭や保育士を目指す人に関しては、せっかく選んだ道を大切にしてほしいと心から思います。実習の学生さんを見ると、行き詰まるとすぐに悩んでしまう人が多いように感じます。最初から完璧でなくてもいいんですよ。子どものために何かしようという意欲があって、自分から積極的に子どもにはたらきかけていたら、お母さん方もそういう面を見ていてくださいます。わからないことはどんどん聞いて、自信を持って前に進んでいってください」



大学・大学院・短期大学部

樟蔭ホームカミングデー2012 開催!

イベント報告

10月27日(土)、学園各校の卒業生の中から10年に一度の対象期にあたる方々をお招きする「ホームカミングデー2012」が、小阪キャンパスで開催されました。

大学祭「くすのき祭」も同時に開かれてにぎわう中、今年は約370名の卒業生とご家族が参加され、昼食会を兼ねた懇親会などで、先生方や友人との久しぶりの再会を楽しまれました。

懇親会では森眞太郎理事長が挨拶し、創立100周年に向けて進化していく学園についてのお話がありました。

樟蔭の創立当時の校舎から、時代とともに進化し、100周年に新しく完成する校舎の映像が流れると、卒業生から自然と拍手が起こりました。

また、卒業生のための体験イベントもあり、「オリジナルハンカチ絞り染め」「学生によるハンドマッサージ体験」「風呂敷を使ったラッピング」「あなたの食事は健康的?&血管年齢測定してみよう!」など、多彩な催しが行われました。今年は、登録有形文化財の「樟蔭館」の見学ツアーが大変人気で、長蛇の列ができていました。

卒業生の皆さんに、母校への懐かしさを感じていただくとともに、未来へ向かって進化していく樟蔭の将来像を知っていただけた、充実した1日となりました。



樟蔭同窓会の総会が開催されました!

イベント報告

5月20日(日)、大阪市天王寺区のシェラトン都ホテル大阪で同窓会総会が開かれました。

総会には269人が参加し、同窓会の運営、活動報告、計画などが審議された後にパーティーが開催され、樟蔭新体操部ジュニアらによる演技や福引で、大いに盛り上がりました。

また、6月5日(火)に東京都港区のホテルオークラ東京で開かれた東京支部総会では、109人が参加し、中高年のチアダンスグループ(ジャパンボンボン)による演技で参加者が元気をもらいました。



同窓会総会

東京支部総会

「こさか」JAZZストリート」に出演! スタッフTシャツは本学学生のデザイン

活動報告

9月23日(日)、近鉄河内小阪駅周辺で「第4回東大阪こさかJAZZストリート」が開催され、中学校・高校と大学の吹奏楽部が参加し、ジャズ演奏を披露しました。どちらも昨年に続いて2回目の出演。中学校・高校吹奏楽部は大阪商業大学で「Sing Sing Sing」などを演奏、スイングジャズで盛り上げました。今年同好会から

部に昇格した大学吹奏楽部は、本学の記念館で、外部のアーティストの方々と7人編成で「君の瞳に恋してる」などを披露し、観客を魅了しました。また、スタッフが着用したTシャツはインテリアデザイン学科3回生の●●●●●さんがデザインするなど、イベントの運営にも協力しました。



左から▲▲▲さんと●●●さん

カザフスタンとスロベニアから留学生がやってきました

9月末から、大使館推薦による国費外国人留学生(日本語・日本文化研修留学生)で、カザフスタン出身の●●●さんとスロベニア出身の▲▲▲さんが、1年間の予定で樟蔭寮に滞在しながら本学で学んでいます。「被服や創作表現など、興味のある授業をたくさん受けられるからすごく楽しい。できれば軽音楽部に

も入りたいです」と●●●さん。日本は5回目という▲▲▲さんは「被服の実習や、附属幼稚園で英語を教える授業がすごく楽しいです。将来は日本に住みたい!」と話してくれました。「たくさん友達をつくって、いろいろなところに行ってみよう」という彼女たちの笑顔から、日本での生活を心から楽しんでいる様子が伝わってきました。

報告

ステラプロジェクト

NEWS

樟蔭生がさまざまな企業とタイアップしながら、樟蔭の新しい魅力を創出し、その軌跡を学外にPRしていく学生広報活動「ステラプロジェクト」。2012年1月の発足からもうすぐ1年。フリーペーパー「ショコラ」の発行をはじめ、コラボスイーツの開発、イベント企画など、その活動領域は順調に拡大しています。今回はその活動の中から、直近のトピックス4つをご紹介します。

1 関西の女子に沖縄の魅力をPR 2泊3日の現地取材を敢行!

沖縄の観光促進機関からの依頼により、沖縄の魅力を関西の女子にPRするガイドブックの制作プロジェクトが発足。ショコラ編集部からの選抜メンバーと大手編集プロダクションが協同し、企画・制作を進めています。夏休みにはステラメンバーが沖縄に向かい、現地取材・撮影にもチャレンジ。2013年1月の発行をお楽しみに!



2 「あなたの古着を世界へ届けよう!」ボランティアイベントに参加

9月28日(金)~30日(日)の3日間、なんばウォークで開催された同イベントに、ステラメンバー3名を中心とした樟蔭生5名がボランティア参加。広報活動をはじめ、当日の窓口対応や仕分けなどを担当しました。衣替えの季節に不要になった古着を貧困地に届けるという目的に賛同した来場者は約3253名。善意により集まった約6万着の古着は現在、ラオスへ搬送されています。

3 大阪を代表するオシャレエリア 南堀江でファッションショーを開催!

多くのデザイナーの連合体としてのNPOが主催するイベント「大阪デザイナーズウィーク」の一環で、ステラファッション班とTEAM☆GLITTERのコラボメンバー28名により、「HORIE GIRLS RUNWAY」を10月21日(日)に開催。企画・演出や各種交渉を行う傍らウォーキング練習を重ね、迎えた当日。人気ブランド「flower」からの提供衣装と、樟蔭生オリジナル衣装によるコーディネートで2部構成のショーは100名を超える観客を迎え、学生モデルがランウェイを華やかに彩りました。

活動報告

4 大阪駅構内の話題の新商業施設で オリジナルドーナツの販売スタート!

大阪駅内にオープンした話題の「エキマルシェ大阪」内で人気の「地中海ドーナツ」から依頼を受け、オリジナルドーナツの企画を提案しています。企画会議、試食会などを重ね、第一弾として「フロース」の発売がスタート。フランス語で花輪を意味するドーナツは、ホワイトチョコにクランベリーなどをトッピングした女の子らしい仕上がりになっています。ぜひ、お召し上がりください!



堀江プロジェクト

ロイヤリティセミナーや ハロウィンイベントに参加!

今年で3年目を迎える堀江プロジェクトは、6月30日(土)に「ロイヤリティセミナー」を開催し、プロジェクトメンバーの学生が堀江ユニオンの皆様と、交流を図りました。堀江の歴史や今後の活動予定などの説明会やタウンウォッチング、また情報交換会を実施し、今後予定しているイベントの確認など、情報共有する良い機会になりました。

また、10月27日(土)には学生がハロウィンイベントに協力。朝から打ち合わせや準備に参加し、午後から夕方まで行われたスタンプラリーの運営サポートを行い、子どもたちの笑顔に勇気をもらいながら、イベントを盛り上げました。

イベント報告



今年も大盛況! SHOIN子育てカレッジ2012

関屋キャンパスで7月28日(土)、29日(日)、児童学部の学生が主体となって「SHOIN子育てカレッジ2012 ~絵本で広がる子育ての輪~」を開催しました。この催しでは「絵本」をテーマにワークショップを開き、毎年多くの子どもたちと保護者の方々に好評をいただいています。今回は、広い部屋に1,000冊以上の絵本を展示した「絵本ワールド」をはじめ紙芝居、人形劇、読み聞かせ、ゲームなど、盛りだくさんの内容でした。参加者からは「学生さんが子どもの目線で話してくれてよかった」「親子で楽しめました」といった声が寄せられました。



イベント報告

大学祭「若樟祭」と「くすのき祭」を開催!

関屋キャンパスでは10月20日(土)、21日(日)に、若樟祭を開催しました。テーマは「The Rock」。「最高・素晴らしい」という意味を持つ「Rock」に「来ていただいた皆さんと一緒に全力で楽しめる最高の若樟祭を作り上げたい」という願いを込めました。伝統の袴に身を包んだ樟蔭生の中からプリンセスを決める袴プリンセスコンテストが開催され、新たなプリンセスが誕生しました。そして、今年初めて樟蔭生の「イケメン」を決めるプリンスコンテストが開催され、男装した樟蔭生の写真の中から、関屋一男前な樟蔭生が選ばれました。その他のイ

ベントも含めて、来場された皆さんとともに盛り上がった若樟祭になりました。10月27日(土)と28日(日)に開催された小阪キャンパスのくすのき祭。テーマは「子どもから大人まで、花のようにたくさんの笑顔が見られる大学祭にしたい」という思いから「flower～笑顔の花を咲かせよう～」。2日目はあいにくの雨でしたが、チケットが完売した三浦翔平さんのトークイベントや袴コンテスト、ファッションショー、ダンスやバンド演奏など盛りだくさんの内容で、大盛況でした。



「YJ(ヤングジャパニーズ) 2012 from SHOIN」学生と子どもたちで作上げたステージ



大阪樟蔭女子大学 Y J は「ヤングアメリカンズ(YA)」に参加した経験のある学生有志を中心に結成したプロジェクトです。アメリカの若者たちが子どもたちに歌とダンスのワークショップを開くYAの活動に感動し、「私たちも子どもたちと一緒にステージを作り上げたい」と集まったメンバーは、心理学部と児童学部の1・2年生18名。10月の若樟祭で披露することを目標に、音楽から振り付け、ステージ構成まで全て自分たちで考え、毎週水曜日と金曜日に練習とミーティングを重ねてきました。8月31日(金)、9月29日(土)には、参加希望した子どもたち23人と一緒に、歌とダンスの練習をしました。子どもたちの緊張をほぐし、打ち解けやすいように途中でミニゲームをしたり、暑さで

倒れないよう水分補給や休憩も十分にとるようにしたりと、さまざまな工夫を凝らしながらの練習となりました。また「本番前にもう一度ワークショップに参加したい」という子どもたちの声を受け、直前リハーサルを10月12日(金)に実施しました。そうして迎えた10月21日(日)の本番は、短い時間の中で集中して練習した成果を発揮し、ステージは大成功! ショーの後、参加した子どもたちからは「楽しかった。またショーをしたい!」「お姉ちゃんたちと会えなくなるのが寂しい」などの声があり、学生たちは来年の再会を誓いました。今回の初めての試みは、学生たちにとって自分自身の成長も実感できる、素敵な思い出となりました。

東大阪の老舗人形工房×被服学科 学生が人形の衣装をデザイン&制作!

被服学科の学生が、東大阪市の(株)松よし人形からの依頼で、販売促進に向けた展示用衣装のデザインと制作を手がけました。雛人形など伝統的な人形を製造販売する同社は、新しいタイプの人形の開発に取り組み、約1年かけて精巧な球体関節人形「aya(あや)」を完成させました。学生たちは妖精や女学生などをイメージした7種類の衣装をデザイン。同社の専門家や工房からアドバイスをいただき、型紙作成から生地のカット、縫製まですべてを自分たちの手で行い、その出来ばえは新聞各紙でも取り上げられました。人形は、11月7日(水)、8日(木)にマイドームおおさかで開かれた「第25回東大阪産業展テクノメッセ東大阪2012」で展示され、地域の方々にお披露目されました。

報告



国際英語学科学生が「樟徳館」公開サポート&まち歩きを行いました!

学園の創立95周年を記念し、11月10日(土)と11日(日)、登録有形文化財の「樟徳館」を一般公開しました。樟徳館は、樟蔭学園の創立者であり材木商であった森平蔵が私邸として建築したもので、銘木をふんだんに使い、当時最高の技術を持った職人たちが建てたものです。当日は、国際英語学科3年生の学生が樟徳館内部の案内と、樟徳館を起点とした小阪周辺のまち歩きも実施しました。まち歩きでは、樟徳館を出発し、彌榮神社、小阪神社、田辺聖子文学館などをたどりまわりました。参加された東大阪在住の留学生たちは、樟蔭の学生たちが英語で作成した地図やリーフレットを見て、とてもわかりやすいと喜んでいました。樟徳館内では、学生は樟蔭の袴を着て各部屋の説明を行い、訪れた方々に樟徳館の良さをより詳しく知っていただくことができました。

イベント報告



「第17回全日本高校・大学生書道展」で4名が入賞!

学生書道のグランプリを決定する「第17回全日本高校・大学生書道展」(公益社団法人日本書芸院、読売新聞社主催)の審査が8月2日(木)に大阪市で行われました。応募作品11,056点の中から、最高賞の書道展大賞(51点)、同展賞(400点)、優秀賞(671点)などが選ばれ、本学学生4名の作品が入賞しました。



左から●●さん、●●さん、●●さん

受賞

受賞者

- 仮名部門 書道展賞 (健康栄養学科3年生)
- 仮名部門 優秀賞 (国文学科3年生)
- 漢字部門 優秀賞 (国文学科4年生)
- (国文学科4年生)



●●さん

大阪国際音楽コンクールで多数ファイナリストに!

9月29日(土)～10月8日(月)に開催された「第13回大阪国際音楽コンクール」ファイナルのアマチュア部門・シニアコースで、児童学科4年生の●●●●さんが6位に、同4年生●●●●さんが文化奨励賞に入賞しました。また、児童学科卒業生の●●●●さんと●●●●さんも文化奨励賞に入賞しています。海外からも数多くの参加者が集まる同コンクールは、美術・文化を発信するとともに、国際交流を深め、世界平和に貢献し、数多くの音楽家を発掘することを目的として、毎年行われています。

受賞



6位入賞した●●さん

中学校・高校

イベント報告

若葉祭を開催しました!

今年の「若葉祭」は、天候の影響を受けながらも無事実施することができました。9月19日(水)に行われたのは、中学校の「全校レクリエーション」と高校の「体育祭」。中学生の全レクは、クラス対抗リレーをはじめ、どの競技も真剣勝負。高校体育祭は、1年生の勇壮なダンス、2年生の「みんなでパネル」、3年生の創作ダンス「青春の躍動」など、練習の成果を発揮していました。9月29日(土)と30日(日)に予定されていた文化

祭は、初日に行われた生徒だけの舞台発表は無事終えたものの、2日目は台風の影響で1日延び、10月1日(月)に実施しました。ラスクなどの模擬店や華やかな舞台発表・作品展示などが催され、平日開催にもかかわらず、多くのご家族などが来校されました。



活動報告

高校健康栄養コース 初めての宿泊実習「木曾福島自然体験学習」を実施

8月20日(月)～22日(水)、伝統的な食文化の継承や地産地消などに取り組んでいる長野県木曾郡にて、高校健康栄養コースの2年生が、「木曾福島自然体験学習」を行いました。地元の管理栄養士さんやOBの方々の協力を得て、栄養バランスの大切さについての講習を受けた後、パーフェクトメニューの、そばサラダ、おぼろ豆腐、お吸い物の大平(おおびら)などの郷土料理を作りました。また、地元の農家でトマトととうもろこしの収穫体験を行い、それを使ってのジャムやパン作りなども実施。また、夜にはキャンプファイヤーを楽しみ、木の枝に刺したマシュマロを焼いて食べるなど、普段は出来ない体験ができました。新鮮な食材、おいしい空気、豊かな自然に囲まれた中での実習は、たった3日間でしたが大変充実した内容で、生徒たちの食に対する関心が大いに刺激されたようです。



活動報告

身体表現コース 新体操部 マレーシア・エンジェルカップに出場!

8月2日(木)～7日(火)、中学校新体操部はマレーシアに遠征し、現地で行われた「エンジェルカップ」に出場しました。団体・個人ともに素晴らしい成績を残しました。



- ★団体部門 第3位 ●●●●(1年桜組) ●●●●(1年桜組)
- ★個人部門 第4位 ●●●●(1年桜組)

大会後には盛大な晩餐会が行われ、さきほどまで競い合っていた選手たちは、笑顔で交流を図っていました。この大会を通じて生徒たちの視野はさらに広がり、大きく成長を果たしたようでした。

特別授業

ホタルの光を再現!~SPP特別授業~

SPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)とは、大学などと連携して科学技術、理科、数学に関する体験的・問題解決的な学習活動を支援する試みです。今回は、「ホタルの発光実験と若手理系研究者との交流」をテーマに、中学校2・3年選抜特進コースの希望者を対象に実施しました。

京都大学大学院医学研究科の井上浄助教をお招きし、研究の楽しさやその道に進んだ経緯などを講演していただきました。先生の熱いお話に、生徒たちは免疫や研究というものに興味を持ったようです。

また、同研究科の大学院生に指導を受けながらホタルの発光のしくみを調べる実験を自分たちで計画・実施し、結果を班ごとにまとめて発表しました。科学に対する生徒の興味や関心がより一層高まる大変よい機会となりました。



「~男女共同参画社会に向けて~
ひとことメッセージ」で今年も複数入賞!

受賞

東大阪市などが、性別に関わらず個性や能力を発揮できる社会を目指して募集した「ひとことメッセージ」高校生の部で、●●●さん(高校3年秋組)が優秀賞、▲▲▲さん(高校3年星組)が佳作に選ばれました。さらに一般の部では、■●●さん(ライフプランニング学科3回生)が優秀賞に選ばれています。

●●●さんは「区別のすると違ふよね。男だから女だからじゃなくて、私だから僕だからにしよう。個性こそが宝物。」、▲▲▲さんは「それぞれが輝ける場所。女も男も才能を最大限に発揮できる社会は、みんなの楽しさを何倍にも増やせられる!」、■●●さんは「男性の社長は社長と呼ばれ、女性の社長は女社長と呼ばれる。そんなに珍しいことなのかな。」と、それぞれの観点から男女共同参画社会に向けた思いをメッセージに込めました。



幼稚園

みんなで手作り、園庭芝生化プロジェクト
—園庭が芝生のじゅうたんに—

子どもたちがのびのびと遊べるよう、園児、保護者、先生、地域の皆さん、NPO法人と一緒に園庭を手作りで芝生化する「園庭芝生化プロジェクト」が発足し、今年で5年目を迎えました。

今年の芝生は、これまでの努力が実り最高の出来です。園児も、ポット苗を植えたり水やりをしたりして、自分たちの園庭作りを手伝いました。

キラキラ輝く芝生を走り回り、芝生にやってきたトンボを捕まえたり、寝転がったり、お弁当を食べたりと、身体全体で芝生の感触を楽しんでいます。

夏芝が冬眠期を迎えるため、10月上旬に冬芝の種まきをしました。順調に育っており、冬もフカフカの芝生で遊ぶのが楽しみです。



報告



子育て支援の一環で園庭開放
~SHOIN根っこを育てようプロジェクト~

地域の方々に対する子育て支援の一環として、「園庭開放」を行っています。今年は「SHOIN根っこを育てようプロジェクト」と題し、さまざまなテーマに沿って未就園の子どもたちの成長を応援するような遊びを取り入れています。

8月25日(土)は「思いっきり遊ぼう~やってみよう!気持ち育てる~」をテーマに開催。新聞紙を広げ

て魔法のじゅうたんや布団を作ったり、丸めて剣や象の鼻にしたり…。子どもたちは想像力を働かせながら、身体をいっぱい使って遊びました。最後は新聞紙をビリビリと破って紙吹雪にし、大歓声をあげながらの雪合戦はとても盛り上がりしました。

今年度は3月まで行う予定ですので、ぜひお越しください。

報告

BOOK Info. 書籍紹介

大学 インテリアデザイン学科
塚口眞佐子 教授 著
「モダンデザインの背景を探る
—バウハウスを軸にみる展開とその思潮—
(全230頁/2012.6.15 近代文芸社)」



論集・紀要に連載の論文を中心に、読み物にまとめました。1920年代ドイツを中心に、嫌われたモダン住宅がステイタス化するプロセスを探ります。人間に視座を据え、インテリア史の新境地を開きました。電子版も出版します。

大学 児童学科 神林信之教授 共著
「教えたくなる数学 学びたくなる数学
~思考力・判断力・表現力を育成する
教材解釈・構成~
(全192頁/2012.9.25 考古堂書店)」



教科書の題材と向かい合い、その背後にある数学的価値を具体的に実現するような教材構成や授業展開の在り方を記述。中学校数学の全21単元において導入時題材、単元まとめの題材などを指導案例として盛り込んでいます。

大学 児童学科 菅正隆教授 共著
「これでわかる英語 小学5年」
「これでわかる英語 小学6年」
(全103頁・全104頁/2012.10.10 文英堂)



昨今、小中連携、小中一貫の言葉がよく聞かれるようになりました。そこで、小学校段階から中学の英語授業に遅れないために、そして、英語の学力が円滑に中学校に継承されるために、本書をご活用いただければと思います。

第6回 英語落語発表会

今年も生き生きとした学生の発表と、本学の非常勤講師であるプロの落語家 桂かい枝師、桂あさ吉師、そしてゲストの英語落語をお楽しみいただけます。

日時:2013年2月20日(水) 13:00~15:30
場所:小阪キャンパス 円形ホール
入場料:無料
お申し込み締切:2013年2月13日(水)

お申し込み方法:本学ホームページまたはハガキ・FAXにて①「英語落語」観覧希望
②氏名(ふりがな) ③住所 ④電話番号 を必ずご記入の上、下記までお申し込みください。
お問い合わせ:〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 国際英語学科事務センター
TEL:06-6723-8316 FAX:06-6723-8348 URL:http://www.osaka-shoin.ac.jp



卒業制作展・卒業論文発表会

下記日程で行いますので、ぜひご覧ください。
被服学科(被服学専攻・化粧品専攻)卒業制作展・卒業論文発表会

◆卒業制作展
日時:2013年1月22日(火)~28日(月) 9:30~16:00
場所:小阪キャンパス 記念館2F(281教室)

◆卒業論文発表会
日時:2013年2月5日(火)・6日(水) 9:00~
場所:小阪キャンパス 円形ホール
※詳細はFIC(ファッション・インフォメーション・センター、06-6723-8227)までお問い合わせください。

インテリアデザイン学科 卒業制作展

◆学内卒業制作展
日時:2013年1月22日(火)~28日(月) 9:30~16:00
場所:小阪キャンパス インテリアデザインラボラトリー(記念館1F)

◆学外卒業制作展
日時:2013年2月8日(金)~11日(月) 11:00~17:00
場所:大阪市中央公会堂地下1階 展示室(地下鉄御堂筋線・京阪電鉄淀屋橋駅より徒歩5分)



国文学科 書道コース生による『卒業書作展』

日時:2013年2月22日(金)~26日(火) 10:00~17:00
場所:小阪キャンパス 記念館2F(281教室)

大学 吹奏楽部

『ジャズストラップ吹奏楽団・大阪樟蔭女子大学吹奏楽部の合同演奏会』

日時:12月2日(日) 14:00~
場所:りんくうパビリオ星の広場(JR・南海電鉄りんくうタウン駅下車すぐ)
お問い合わせ:大学 小阪キャンパス 学生支援課 TEL:06-6723-8279



『第12回 心の相談コロキウム 樟蔭心理臨床カンファレンス』

テーマ:発達障害への理解と支援 ※詳細はHP等をご確認ください。
日時:2013年2月2日(土) 各コース13:00~16:00
場所:関屋キャンパス
対象:発達障害児に関わる仕事をされている方 幼稚園・小学校・中学校教諭、保育士、臨床心理士、スクールソーシャルワーカー・大学院生(臨床心理系)など。
受講料:各コース1人2,000円(事前振込制)
コース:①発達障害児への支援のアイデアを考える
②自閉症を疑われる子どもへの関わり~言動が意味すること~
③発達検査を通して見た発達障害

お申し込み締切:2013年1月7日(月) 必着
お申し込み方法:FAX、e-mailまたはハガキにて下記カウンセリングセンターまでお申し込みください。
住所・氏名(ふりがな)・ご所属・職種・電話番号・FAX番号・e-mailアドレス(お持ちの方)と参加コース名を明記してください。
※カンファレンスで事例を提供して検討したいという方は、その旨お申し出ください。
お申し込み・お問い合わせ:〒639-0298 香芝市関屋958 大阪樟蔭女子大学 カウンセリングセンター(関屋キャンパス)
TEL:0745-71-3150 FAX:0745-71-3140
E-mail:counseling-center@osaka-shoin.ac.jp
URL:http://www.osaka-shoin.ac.jp



高校

バスケットボール部

2年生を中心として新たなスタートを切ったバスケットボール部。チームを引っ張るキャプテンの●●●さん(2年秋組)と、副キャプテンの▲▲▲さん(2年秋組)にインタビューしました。

9月初めに出場した中央大会で3年生が引退し、●●●さんや▲▲▲さんを軸にした新チームが結成された。バスケットボール部。強く頼もしい先輩たちがいなくなった不安を抱えながらも、憧れの存在に追いつき、そして追い越そうと懸命です。

Q 新たなキャプテン、副キャプテンに指名された時はどんな気持ちでしたか？

A ●●●さん(以下、●●●) 3年生も含めたメンバー内での投票でまず選ばれて、最終的には顧問の山盛先生が判断されるんですけど、選ばれた時はすごくびっくりしちゃって……。でもすぐに「やるしかないな」と思い直しました。

▲▲▲さん(以下、▲▲▲) 私も選ばれるとは思ってなかったの、びっくり。不安でしたが、毎日の練習メニューや課題を記録している「部活ノート」に、「元気良くみんなを引っ張っていきたい」と書いたら、山盛先生が一言「期待しているぞ」と返事をくださって。頑張るキャプテンを少しでもサポートできればと思っています。

●●● 先生からは「●●●はみんなを怒れるか心配」と言われたんですが、練習では副キャプテンと一緒に率先して声を出して、注意すべきことは

言うようにしていますね。

Q チームを作っていく上で、大切にしていることはありますか？

A ●●● やっぱり雰囲気が大切ですよ。試合中も意識して、声出しています。ミスした時も、声かけて盛り上げれば、気持ちも切り替えられます。

▲▲▲ 普段の練習でも同じです。楽しくて明るいチームなら、みんなが自分の気持ちを素直に言える。そういう雰囲気作りをしています。

Q 試合中や練習中お互いを呼び合うコートネームがあるとか？

A ●●● 私は「風(なぎ)」です。「チームの雰囲気を穏やかにさせる、和ませる」という意味があります。

▲▲▲ 私のネームは「恵」と書いて「ハグ」と読みます。「思いやりのある、素直で賢いプレイヤー」という意味があって、入部時に当時の3年生が名付けてくれました。

●●● 紙に名前と意味を書いて、1人ずつに渡し



左から「なぎ」こと●●●さんと「ハグ」こと▲▲▲さん

てください。普段でもみんなコートネームで呼び合っているんです。

Q バスケットボール部の雰囲気と今後の目標をお願いします。

A ●●● メンバーは2年生が7人、1年生が4人。仲が良いし、なんでも言い合える。なによりめっちゃ明るい！頼りにしていた3年生が抜けて、キャプテンとしてチームをまとめていけるか不安でしたが、みんなに支えてもらっています。今は、11月開催の大会に向けて、体力作りに取り組んでいます。

▲▲▲ 粘り強く戦うために、結構走り込んでいます。しんどいと思うこともありますが、みんなで声をかけあって頑張っています。人数は決して多くないですが、元気の良さでどこにも負けたくない。大会では1つでも多く勝ち進みたいと思っています。

練習では、みんな本当に元気が良く、大きな声が飛び交っています。撮影が終わり、取材陣が帰ろうとすると、最後に全員で「取材、ありがとうございました」と一礼して送っていただきました。



- バントワリング部**
JAPAN CUP2012(8/31~9/2)
◆優勝 中学校ボンボンチーム ※3年連続受賞!
◆優勝 高校ボンボンチーム ※3年連続受賞!
◆第2位 中学校バントワリング部
◆第3位 高校バントワリング部
第22回マーチングバンド・バントワリング大阪府大会(9/17)
◆金賞 中学校バントワリング部 ※3年連続全チーム金賞受賞!
◆金賞 高校バントワリング部
◆金賞 高校ボンボンチーム
◆金賞 中学校ボンボンチーム

- 新体操部**
マレーシアエンジェルカップ(8/2~7)
◆団体第3位 樟蔭クラブ
●●●●(中1年校組) ●●●●(中1年校組)
●●●●(中1年校組) ●●●●(中1年校組)
◆個人第4位 ●●●●(中1年校組)

- 中学校陸上部**
第15回大阪私立中学校総合体育大会(8/25~26)
陸上競技部
◆走り幅跳び 優勝 ●●●●(中3年李組)
◆100m走 第4位 ●●●●(中3年橋組)
◆200m走 第6位 ●●●●(中3年橋組)
◆中学女子総合順位 第7位
◆中学女子フィード部門 第3位

WingBEAT!

～はばたくSHOIN GIRL～

健康栄養学科3年生
●●●●●さん
学生広報チーム「ステラプロジェクト」メンバー

私たちの大学の魅力は、
私たちが学生が伝えます！

大阪樟蔭女子大学の魅力を学生自身の手でPRする学生広報チーム「ステラプロジェクト」が2012年1月にスタートしました。健康栄養学科3年生の●●●●●さんはプロジェクトの中心メンバーの一人として、女子高校生向けのフリーペーパー「Chocolat(ショコラ)」の創刊や地元カフェとコラボ商品の開発、受験生のための学生ブログ「毎日のこと」の運営に取り組んできました。本学での学生生活やプロジェクト活動を通して、自分のアイデアが商品開発につながる面白さに目覚め、何事にも積極的に became という●●●さん。10月末にJR大阪駅にオープンした商業施設「エキマルシェ大阪」内の店舗に仲間と一緒に考案したドーナツが採用されるなど、ますます充実した日々を送っています。

「大学生発→高校生行き」のフリーペーパーをつくる
●●●さんは1回生のとき、大阪市西区の堀江地域の活性化を目指し、学生と地域が協力してイベントなどを行う「堀江プロジェクト」に参加。もともとスイーツに興味があり、地元の店舗とスイーツの新商品開発に取り組まされた。このときの「最初に提案した企画が採用され、実際にお店で販売されたことが、とてもうれしかった」という経



験が、商品開発の楽しさを知り、「ステラプロジェクト」に関わるきっかけになりました。「ステラプロジェクト」には約30人の学生が参加しています。地元の人気カフェ「フランス」と共同でスイーツやサンドイッチの商品開発をするほか、女子高校生向けのフリーペーパーの編集制作を行うなど、さまざまな活動をくり広げています。「健康栄養学科なので食には関心がありましたが、広報・編集の仕事にも興味があり、フリーペーパー制作にも参加したいと思いました。年長的にも女子高校生に近い私たちにしか作れないフリーペーパーを読んでもらい、樟蔭にあこがれをもってほしいです」創刊号では「手づくりサンドと一緒にピクニックへ出かけよう!」のページを担当、第2号では、学生オスメのスイーツを集めた巻頭企画「ミナミスイーツコレクション」のリーダーを務めました。フリーペーパー制作の過程で、プロの編集者やカメラマンと一緒に仕事をすることがあったことも、たいへん勉強になったといえます。また、学科や学年が異なるメンバーとチームで作業を進めることの難しさも実感しました。プロジェクトでは、高校生に大学生活を知ってもらおうとブログ「毎日のこと」も運営しており、さまざまな形で樟蔭の情報を発信し続けています。

キャンパスの外でも商品開発で大活躍
●●●さんは昨年4月から半年間、大阪府守口市の食品コンサルタント会社「キタマ」でのインターンシップにも参加しました。一緒に参加した仲間3人と冬向けのオリジナル調味料の開発に取り組み、試作を重ねたり、自分たちで作ったものを持ち寄りながら試行錯誤を続けました。そして、●●●さんたちの意見を反映した商品が「濃い!梅だれ」として発売され、新聞にも掲載されて話題となりました。またステラプロジェクトの活動で、10月末にオープンしたJR大阪駅「エキマルシェ大阪」の店舗とドーナツを共同開発するなど、活躍の舞台をキャンパスの外にも広げています。「高校生のときはあまり積極的に行動するタイプではありませんでしたが、大学ではやってみたくと思ったことにはすべて参加してきました。プレゼンテーションも最初は緊張して、うまくできませんでした。今では自分の意見をしっかりと伝えるようになりました。社会と触れ合うことができるステラプロジェクトは貴重な経験ばかりです。樟蔭に入学して本当によかった」と樟蔭のキャンパスで大きく成長した●●●さん。プロジェクトの活動を通して商品開発の過程を知ることができたことで、食に関わる仕事に就きたいという思いが高まったといえます。「自分は何に向いているかということも、実際にやってみないと分かりません。自分に向いていることを探すためにも、これからも自分で見て、自分で経験することを積極的に続けていきたいです」



Profile ●●●●● 大阪府河内長野市出身。大阪府立狭山高校卒業。健康栄養学科3年生。学生広報チーム「ステラプロジェクト」メンバー。

● 皆様とのコミュニケーションスペース

寄付金応募へのお礼

2012年10月31日現在までにご寄付いただいた方を掲載しています。以降につきましては、次号に掲載予定です。

この度、多くの皆様から寄付へのご応募を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。皆様からの温かいご支援を励みに、教職員一同で今後ともより良い学園づくりに努めて参ります。

【寄付者の芳名】(敬称略・五十音順)

ホームページでは寄付者の芳名を公表していません。

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます
渥美 良一さん(高校/参与)
5月12日 59歳

人事

退職

- 法人本部/職員
石川 貴之(2012.8.31.付)
- 大学短期大学部/職員
一井 武(2012.4.30.付)

新規採用

- 学園(広報室)/職員
大山 哲(2012.10.1.付)

学園を支えてくださる皆様へ

樟蔭学園は、創立100周年という大きな節目に向かおうとしている今、現代社会に生きる女性に必要とされる最良の教育を提供し、自らの幸福だけでなく、社会全体の幸福に貢献できる人材を育成してまいります。樟蔭学園が次世代にも誇れる学園として更なる飛躍を遂げるため、皆様からの温かいご支援をお願いいたしたく、下記の寄付金にご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

樟蔭学園創立100周年記念事業募金

創立100周年記念事業計画に資する資金調達のための寄付金です。

募集期間 2012年10月～2017年12月

大学等教育研究施設設備充実と環境整備事業

- 大学新校舎(2棟)、体育館の建設
- 中学校・高校校舎の改修工事
- 校舎の耐震化改修工事
- 学生・生徒支援事業
- 学生・生徒等の修学困難者救済支援

教育環境整備寄付金

学生・生徒がより充実した環境で学び、有意義な学園生活をおくることできるように、設備や制度の充実を図るための寄付金です。

課外活動支援寄付金

学生・生徒のクラブ活動や委員会活動、ボランティア活動などを支援する寄付金です。

※各寄付金とも、寄付の対象を学園もしくは学園各校のいずれかにご指定いただくことが可能です。

ご寄付いただきました個人には、寄付金額に応じて樟蔭オリジナル記念品を贈呈いたします。ただし、記念品の種類はお選びいただけませんので、悪しからずご了承ください。



税制上の優遇措置等、寄付金についての詳細につきましては、同封のリーフレットをご覧ください。

○寄付者への顕彰

個人からの寄付の場合

- ご寄付いただいた個人には、学園報「くすのき」へ芳名を掲載のほか、お礼状と記念品をお贈りいたします。
- 1回のご寄付につき、50万円以上のご寄付をいただいた個人には、学園報「くすのき」へ高額寄付者として掲載させていただくほか、理事長からの感謝状と特別記念品をお贈りいたします。
- 樟蔭学園創立100周年記念事業募金へ、募金期間を通して20万円以上のご寄付をいただいた個人には、「樟蔭学園創立100周年記念誌」へ芳名を掲載させていただきます。

企業等法人からの寄付の場合

- 1回のご寄付につき、100万円以上のご寄付をいただいた企業等法人には、学園報「くすのき」へ高額寄付者として掲載させていただくほか、お礼状をお贈りいたします。
- 樟蔭学園創立100周年記念事業募金へ、期間を通して100万円以上のご寄付をいただいた企業等法人には、「樟蔭学園創立100周年記念誌」へ芳名を掲載させていただきます。

○問い合わせ窓口

個人の方:法人事務局総務課企画・渉外グループ
TEL:06-6723-8183 FAX:06-6723-8263
企業等法人の方:法人事務局経理課
TEL:06-6723-8398 FAX:06-6723-8263

渥美良一先生を悼む



在りし日の渥美先生

この3月まで高等学校の副校長の重責を担い、樟蔭に奉職当初から教務、進路、入試など、学校運営の中枢を歩んでこられた渥美良一先生が5月12日23時55分に永眠されました。4月からは数年ぶりに授業も持たれ、うれしそうでしたが、4月の連休前に体調不良を訴えられ、昨年10月から数えると4回目の入院となりました。『今回は治療に専念する』と決意を語られ、5月2日にお見舞いに行った時には『院内散歩もしているんや』と明るい様子でした。その時私たちは、少し安心して病院を出ました。しかし無情にも5月16日に奥様から悲しい知らせが届きました。『葬儀一切が終わるまで学校関係者に知らせるな』という彼の遺志でした。彼らしいと言えはそうなのですが、今でも「寂しいぞー」と叫びたくなります。年齢は同じ、性格は真逆に近い彼と私でしたが、同時にお互いを認め合える仲間でした。ゆっくりと煙草とお酒を楽しんでください。そして私たちを見守ってくださいね。

樟蔭高等学校
副校長 高木秀真

2013年度 入試日程及び関連イベントについて

学園各校の平成25年度の入試日程及び関連イベントについて、ご紹介いたします。お近くに進学年齢を迎えた方がいらっしゃいましたら、ぜひ樟蔭への進学を薦めていただけますようお願い申し上げます。入試に関する詳細な情報を知りたい方や、願書や資料の送付を希望される方は下記の各担当窓口までお問い合わせください。

お問い合わせ先 ■ 大学・大学院: 学園広報室 TEL: 06-6723-8274 ■ 中学校・高等学校: 中高幼事務室 TEL: 06-6723-8185

2013年度 入試日程

	試験名	出願期間	試験日	合格発表日
中学校	A 入 試 ※1	12月3日(月)～ 1月18日(金)	1月19日(土)	1月20日(日)
	B 入 試 ※1	12月3日(月)～ 1月20日(日)	1月20日(日)	1月21日(月)
	C 入 試 ※1	12月3日(月)～ 1月21日(月)	1月21日(月)	1月22日(火)
高校	入 試	1月23日(水)～ 2月 1日(金)	2月 9日(土) 学力試験 2月10日(日) 面接 ※2	2月12日(火)
大学	推薦入試B[専願・併願] ※3	11月12日(月)～ 12月11日(火)	12月15日(土)	12月22日(土)
	一般入試AI	12月21日(金)～ 1月18日(金)	1月25日(金)・26日(土) (試験日自由選択制)	2月 2日(土)
	一般入試AII	1月 7日(月)～ 2月 5日(火)	2月 9日(土)	2月16日(土)
	一般入試AIII(センタープラス) ※4			
	一般入試B	2月 4日(月)～ 2月22日(金)	2月28日(木)	3月 8日(金)
	一般入試C	3月 1日(金)～ 3月13日(水)	3月16日(土)	3月20日(水・祝)
大学院	大学院(人間栄養学専攻)II期	1月15日(火)～ 2月 8日(金)	2月16日(土)	2月23日(土)
	大学院(臨床心理学専攻)II期	2月12日(火)～ 3月 2日(土)	3月 6日(水)	3月 9日(土)
	大学院(化粧品ファッション学専攻)II期	1月15日(火)～ 2月 8日(金)	2月16日(土)	2月23日(土)

※1 身体表現コースのみ、面接・実技審査があります。 ※2 専願者のみ。 ※3 健康栄養学科は実施しません。 ※4 一般入試AIIを受験した者のみ出願可能です。

入試関連イベントのお知らせ

	行事	日程	時間	内容	申込
中学校 高校	入試対策講座	12月 8日(土)	9:30-12:30(高校)	入試説明、入試得点アップの秘けつなどをお教えます。	不 要
			14:00-16:30(中学校)		

■ 会 場: 樟蔭中学校/樟蔭高等学校(東大阪市菱屋西4-2-26) ■ お問い合わせ: 中高幼事務室 TEL: 06-6723-8185

大 学	ミニオープンキャンパス (小阪・関屋同時開催)	12月22日(土)	13:00-16:00	1・2年生対象 キャンパスを体感しながら、入試についての相談などもしていただけます。 当日はクリスマスパーティーも開催します!!	不 要
	一般入試対策講座 (小阪のみ:全学部対応)	12月22日(土)	12:30-17:00	一般入試ガイダンスや「英語」「国語」「生物」「化学」の対策講座と、個別相談も受け付けます。	不 要
	春のオープンキャンパス (小阪のみ:全学部対応)	3月10日(日)	10:00-15:00	さまざまな学科体験企画や、模擬授業、学生や先生とお話できるスペースもご用意しております。	不 要

■ お問い合わせ: 学園広報室 TEL: 06-6723-8274

★中学校「身体表現コース」がクラブに スキー部・バスケットボール部・体操部が加わります!

樟蔭中学校「身体表現コース」は、従来の「バントワリング」「新体操」「ダンス」「ソフトテニス」に加え、新たに「スキー」「バスケットボール」「体操」の3クラブを迎え、2013年4月よりクラブが対象となります。

8年連続インターハイ出場を果たしているスキー部、段違い平行棒などの充実した施設環境が整っている体操部、特に地元からの需要が多いバスケットボール部が加わることで、さらなる高みを目指し、身体表現コース独自のアプローチによって総合力のある生徒を育てていきます。



★詳細は、本学ホームページ(<http://www.osaka-shoin.ac.jp>)にてご確認ください。

学校法人樟蔭学園 平成23年度決算概要

平成23年度決算が、5月28日の理事会で承認されました。
 資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表の概略を掲載し、併せて「学校法人会計の特徴」及び「財務比率」についても説明致します。
 なお、樟蔭学園のホームページにおいても、財務状況について開示しております。
http://www.osaka-shoin.ac.jp/open_info/finance.html からご確認ください。

(1) 資金収支計算書の概要

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位 千円)

収入の部					
科目	平成23年度	平成22年度	増減	増減率(%)	備考
学生生徒等納付金収入	3,666,459	3,825,890	△ 159,431	△ 4.17	☆
手数料収入	62,267	63,619	△ 1,352	△ 2.13	☆
寄付金収入	40,419	37,724	2,695	7.14	☆
補助金収入	718,736	885,966	△ 167,230	△ 18.88	☆
資産運用収入	118,905	111,719	7,186	6.43	☆
資産売却収入	1,484,972	120,950	1,364,022	1,127.76	
事業収入	44,686	43,599	1,087	2.49	☆
雑収入	198,188	216,448	△ 18,260	△ 8.44	☆
借入金等収入	847,641	1,436,252	△ 588,611	△ 40.98	※短期借入金
前受金収入	653,882	657,796	△ 3,914	△ 0.60	
その他の収入	895,211	638,754	256,457	40.15	
資金収入調整勘定	△ 811,160	△ 850,129	38,969	△ 4.58	
前年度繰越支払資金	1,135,721	987,625	148,096	15.00	
収入の部合計	9,055,927	8,176,213	879,714	10.76	
支出の部					
科目	平成23年度	平成22年度	増減	増減率(%)	備考
人件費支出	3,786,114	4,083,199	△ 297,085	△ 7.28	☆
教育研究経費支出	895,527	959,709	△ 64,182	△ 6.69	☆
管理経費支出	358,543	392,027	△ 33,484	△ 8.54	☆
借入金等利息支出	10,331	10,648	△ 317	△ 2.98	
借入金等返済支出	1,614,701	803,311	811,390	101.01	
施設関係支出	93,276	285,032	△ 191,756	△ 67.28	※1
設備関係支出	85,873	59,133	26,740	45.22	※2
資産運用支出	828,336	441,778	386,558	87.50	
その他の支出	296,520	284,033	12,487	4.40	
資金支出調整勘定	△ 330,658	△ 278,378	△ 52,280	18.78	
次年度繰越支払資金	1,417,364	1,135,721	281,643	24.80	
支出の部合計	9,055,927	8,176,213	879,714	10.76	

☆印は、消費収支計算書の概要を参照。

(2) 消費収支計算書の概要

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位 千円)

消費収入の部					
科目	平成23年度	平成22年度	増減	増減率(%)	備考
学生生徒等納付金	3,666,459	3,825,890	△ 159,431	△ 4.17	※1
手数料	62,267	63,619	△ 1,352	△ 2.13	※2
寄付金	46,883	47,087	△ 204	△ 0.43	※3
補助金	718,736	885,966	△ 167,230	△ 18.88	※4
資産運用収入	118,905	111,719	7,186	6.43	※5
資産売却差額	171,960	0	171,960	***	
事業収入	44,686	43,599	1,087	2.49	※6
雑収入	198,188	216,448	△ 18,260	△ 8.44	※7
帰属収入合計	5,028,084	5,194,328	△ 166,244	△ 3.20	
基本金組入額合計	△ 137,360	△ 332,926	195,566	△ 58.74	
消費収入の部合計	4,890,724	4,861,402	29,322	0.60	
消費支出の部					
科目	平成23年度	平成22年度	増減	増減率(%)	備考
人件費	3,729,311	4,034,121	△ 304,810	△ 7.56	※8
教育研究経費	1,368,667	1,489,056	△ 120,389	△ 8.08	※9
管理経費	402,387	436,085	△ 33,698	△ 7.73	※10
借入金等利息	10,331	10,648	△ 317	△ 2.98	
資産処分差額	234,485	9,171	225,314	2,456.81	
徴収不能引当金繰入額	1,058	728	330	45.33	
消費支出の部合計	5,746,239	5,979,809	△ 233,570	△ 3.91	
当年度消費収支超過額	△ 855,515	△ 1,118,407			
前年度繰越消費収支超過額	△ 5,661,257	△ 4,918,441			
基本金取崩額	31,221	375,591			
翌年度繰越消費収支超過額	△ 6,485,551	△ 5,661,257			

注記内容

- ※1 学生生徒数が減少したことにより、学生生徒等納付金は減収。
- ※2 受験生は、大学・高校・中学で増となったが、短大の募集停止と幼稚園の減により全体としては若干の増にとどまる。
- ただし、検定料としては減収であり、手数料全体としては減収。
- ※3 大学後援会よりの寄付金が増収となったが、任意寄付金及び現物寄付金が減収となったことにより、寄付金全体としては減収。

注記内容

- ※1 本年度の主な施設充実
 小阪校地
 3号棟動物飼育室・実験室新設工事、1号棟・3号棟学生ラウンジ改修工事、1号棟大学食堂改修工事、8号棟学園広報室新設工事、老朽化空調機改修工事(3~4号棟・9号棟・13~14号棟・17号棟他)、1号棟・3号棟非常用発電機新設工事、4号棟1階南出口(リアフリー)対策工事等。
- 閑居校地
 給水管更新工事等。
- ※2 本年度の主な設備充実
 大学(小阪校地)教室AV機器一式更新、動物飼育室・実験室用備品、大学健康栄養学科高額備品、大学被服学科高額備品、大学・短大学生情報検索ソフト一式、大学図書館目的管理サブシステム、高校児童教育コース用ピアノ、学園Gmail(ソフト)更新等。

- ※4 補助金全体としては、経常費補助金及び大学教育・学生支援推進事業に係る補助金の減額を主な理由として減収。
 内訳は次のとおりである。

- 経常費補助金(特別補助金を含む)は減額。[21.01%減]
 [大学 31.20%減、短大 24.70%減]
 [高校 10.09%減、中学 14.72%減、幼稚園 0.50%増]
- 施設設備等整備に係る補助金は減額。(申請なし)
- 私立学校施設高度化推進事業費補助金(利子助成)採択。
- 大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)
 ・大学 SHOINLごとナビ。
 ・短大 申請なし。
- 授業料支援等補助金は増額。[44.93%増]
 [高校 49.65%増、幼稚園 14.67%増]

- ※5 資産運用は、依然として厳しい市場環境であるが若干の増収。
- ※6 大学寮生の増に伴う寮費増収を主な理由として、補助活動収入は増収となったが、委託研究費が減収となり、事業収入全体としては若干の増収。
- ※8 教職員の減員、賞与率見直し等を主な理由として、減額。
- ※9 奨学費が増額となったが、大学教育・学生支援推進事業縮小、教育用機器リース期間満了に伴う賃借料の減額、教育関係修繕費の減額、教育関係資産の減価償却額の減額などを主な理由とし、全体として減額。
- ※10 学生生徒募集経費の減額などを主な理由として、減額。

(3) 貸借対照表の概要

平成24年3月31日

(単位 千円)

資産の部					
科目	平成23年度	平成22年度	増減	増減率(%)	備考
固定資産	20,100,435	20,791,393	△ 690,958	△ 3.32	
有形固定資産	14,648,928	15,004,991	△ 356,063	△ 2.37	※1
その他の固定資産	5,451,507	5,786,402	△ 334,895	△ 5.79	※2
流動資産	2,092,402	2,903,331	△ 810,929	△ 27.93	※3
資産の部合計	22,192,837	23,694,724	△ 1,501,887	△ 6.34	

負債の部					
科目	平成23年度	平成22年度	増減	増減率(%)	備考
固定負債	2,290,331	2,404,573	△ 114,242	△ 4.75	※4
流動負債	1,216,412	1,885,902	△ 669,490	△ 35.50	※5
負債の部合計	3,506,743	4,290,475	△ 783,732	△ 18.27	

基本金の部					
科目	平成23年度	平成22年度	増減	増減率(%)	備考
第1号基本金	24,685,645	24,579,506	106,139	0.43	※6
第4号基本金	486,000	486,000	0	0.00	
基本金の部合計	25,171,645	25,065,506	106,139	0.42	

消費収支差額の部					
科目	平成23年度	平成22年度	増減	増減率(%)	備考
翌年度繰越消費収支超過額	△ 6,485,551	△ 5,661,257	△ 824,294	14.56	
負債の部・基本金の部・消費収支差額の部合計	22,192,837	23,694,724	△ 1,501,887	△ 6.34	

減価償却額の累計額の合計額	10,327,473	9,928,048	399,425	4.02	
基本金未組入額	179,797	228,180	△ 48,383	△ 21.20	

(4) 学校法人会計の特徴

学校法人の決算書は「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」の3つの財務諸表で構成されています。
 資金収支計算書は、当該会計年度(4月1日~3月31日)の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにします。
 消費収支計算書は、当該会計年度の消費収入と消費支出(正味財産の増と減)の内容及び両者の均衡状態を明らかにし、学校法人の経営状況を表します。企業会計の損益計算書の目的に類似した計算書となっています。消費収入は、当該会計年度の帰属収入(学校法人に帰属する、負債とならない収入をいう。)を計算し、その額から固定資産を取得するための支出や積立金などで構成される基本金組入額を控除して計算します。消費支出は、当該会計年度において消費する資産の取得価額及び当該会計年度における用役の対価に基づいて計算します。そして、当該会計年度の収支の均衡状態は、当年度消費収支超過額で表します。
 貸借対照表は、学校法人の資産・負債・正味財産(基本金+消費収支差

額)を把握し、財政状態を明らかにした、長期的な運営の方向性を決めるための財務諸表です。資金収支計算書と消費収支計算書が単年度ごとの状況を表す一方、貸借対照表は、今までの学校法人の活動を行ってきた積み重ねの結果を表します。企業会計と同じく、借方に資産、貸方に負債を計上します。貸方に「基本金の部」を計上するなどの違いはありますが、企業会計の貸借対照表と構造は似ています。
 学校法人の収支状況を見るには、消費収支計算書の帰属収支差額に注目します。
 帰属収支差額は、帰属収入から消費支出を差し引いたもので、企業会計でいう収益から費用を差し引いた利益に相当するものであります。しかし、学校法人は一般の企業に比べ極めて公共性が高く、安定した経営を維持して行く必要があるため、この利益は利潤ではなく、学校の施設設備等の取得財源や借入金の返済財源となるものです。つまり、帰属収支差額によって、当該年度の施設設備等の充実、借入金返済、将来の施設設備の更新等のための引当特定資産等の充実が行われること

なります。
 そして、学校法人会計基準は、その財源(学校法人を継続的に維持すべき財源)に充当すべき額を基本金とし、消費支出に充てる前の帰属収入のうちから控除して組入れる(確保する)こととなっています。
 帰属収支差額がプラスの場合は、当該年度において自己資金が確保されていることを表し、マイナスの場合は、帰属収入で消費支出を賅えない状態であり、基本的には過年度において蓄積された自己資金を食い潰すか、借金をしない限り経営が成り立たないことを示しています。
 ただ、収支状況は単年度のみを見るだけでは判断出来ませんので、過去数年間の傾向や今後の収支の予測を考慮する必要があります。
 一般の企業の経営が利益追求を目的としているのに対して、学校法人の経営は長期安定的に教育・研究活動を継続することに主眼がおかれています。学校法人の財務諸表は、学校が、教育・研究活動の質的向上を図りながら、いかに安定的な余裕資金を維持し、資産を形成しているかという視点で見ることが重要であります。

学校法人樟蔭学園の平成22年度及び平成23年度の財務比率

※表欄外の下線付きの数字は、日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」の平成22年度全国大学法人規模別比率を示します。

※自己資金 = 基本金 + 消費収支差額 ※総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額 ※運用資産 = その他の固定資産 + 流動資産 ※外部負債 = 総負債 - (退職給付引当金 + 前受金)

消費収支計算書関係

●人件費比率
 人件費は消費支出の中で最大の部分を占めているため、この比率が高くなると消費支出の悪化を招きやすい。



教育研究経費比率

この経費は教育研究活動の維持・発展のため高い方がよい。



管理経費比率

学校法人の運営のためには、ある程度の経費の支出は止むをえないが、比率として低い方が望ましい。



消費収支比率

この比率が100%を超えると、消費支出が消費収入を上回る消費支出超過(赤字)となり、100%未満であると消費収入超過(黒字)となる。一般的には、収支が均衡する100%前後が望ましいと考えられるが、消費収支を黒字にして資金蓄積を図ることを計画するならば、低い値も目的に合うことになる。



貸借対照表関係

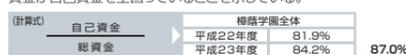
●固定比率
 固定資産の自己資金に対する割合で、固定資産にどの程度自己資金が投下されているか、資金の調達源泉とその使途とを対比させる比

率である。低い方が望ましい。固定資産に投下した資金の回収は長期間にわたるため、本来投下資金は返済する必要のない自己資金を充てることが望ましい。しかし、現実的には大規模設備投資の際には、外部資金の導入をせざるを得ない場合が多いため、この比率が100%を超えることは少なくない。このような場合は、固定長期適合率も利用して判断する必要がある。



自己資金構成比率

自己資金の総資金に占める構成割合である。この比率は、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も総括的で重要な指標である。この比率は、高いほど財政的に安定しており、50%を割ると他人資金が自己資金を上回っていることを示している。



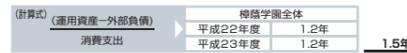
内部留保資産比率

その他の固定資産(各種引当資産や長期有価証券など)と流動資産(現金預金や短期有価証券など)を合計した運用資産から総負債を引いた金額の総資産に占める割合である。この比率は、有形固定資産以外の資産から総負債を引いた金額が、資産規模に比べてどのくらいあるかを評価する指標である。この比率がプラスであると、その他の固定資産と流動資産で負債総額を全て充当することができ、結果として有形固定資産は自己資金で調達されていることを意味している。プラス幅が大きいほどその他の固定資産と流動資産の合計した運用資産の蓄積度が高い。一方、この比率がマイナスの場合は、貯蓄された運用資産より総負債が上回っており、財政上の余裕度が少ないことを表している。



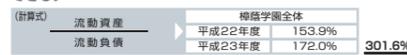
運用資産余裕比率

貸借対照表上のその他の固定資産と流動資産を合計した運用資産から、総負債のうち退職給付引当金と前受金を除いた外部負債を引いた金額が、消費収支計算上の消費支出の何倍かを示す比率である。この比率は、総資産のうち各種引当特定資産、有価証券、現金預金などの運用可能資産から、総負債のうち外部に返済を迫られる借入金・学校債、未払金などの外部負債を差し引いた金額が、法人の一年間の支出規模に対してどの程度蓄積されているかを表す指標である。この比率が高いほど支出規模に対して資金蓄積が良好であるといえる。なお、この比率の単位は(年)である。



流動比率

一般的に200%以上が好ましい状態であるが、この比率が極端に低い場合には資金流動性に欠け資金繰りが苦しいと判断できる。



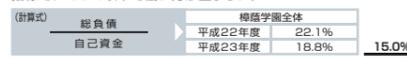
総負債比率

40%~50% が財務の分岐点と考えられるが低い方がよい。



負債比率

この比率は、他人資金が自己資金を上回っていないかどうかをみる指標で、100%以下で低い方が望ましい。



異国の地で発見する頼もしさ

中学校・高校 **松井 正**先生

今年度の中学校・高等学校海外研修は中学3年生12人と高校2年生9人が参加し、7月21日から8月4日までオーストラリア南部の文教都市アデレードでおこなわれました。

語学学校での英語授業を中心に、毎年お世話になっている現地の女子中学校・高等学校(St. Aloysius College)での授業参加が組み込まれたプログラムでした。数学や社会、理科、体育など日本の学校でもおなじみの教科のほかに、演劇やカトリック校ならではの宗教の授業などにも参加しました。生徒たちにとっては、同年代の外国の生徒と過ごす学校生活は楽しく刺激的であったようで、授業後もバディー(学校生活のお世話をしてくれる専属の現地生徒)と仲よく談笑する姿が印象的でした。先生方も本校生に大きな愛情を持って接していただき、外国で心

細くなりがちな気持ちを優しく包んでくださいました。

また、授業の合間に実施された数回の遠足では、オーストラリアの雄大な自然やあこがれの動物にふれることができただけでなく、歴史や文化もきちんと学ぶことができました。このように、充実した日々を送り、「毎日寝るとき、明日が楽しみです」(中3生徒の感想より)との思いを抱くことができたのは、ホストファミリーの皆さんがしっかりと生活をサポートしてくださったおかげです。最終日、2週間お世話になった家族との別れはつらいもの

まついただし
●中学校・高校教諭
英語科担当
東大阪市生まれ。1981年より樟蔭中学校・高等学校で勤務。



になりましたが、外国にも新たなファミリーができ、帰国後も連絡を取り合っている生徒がいます。

この海外研修のさまざまな場面で、引率の原田真由美先生と私は生徒たちの頼もしい姿に接することができました。異文化の中で初めてのことに戸惑いながらも、英語を使って力強い歩みを刻み、日々成長していく彼女たちの姿を間近で見ていた私たちは、セントアロイシャス・カレッジでのフェアウェル・セレモニーの日、熱くこみ上げてくるものを抑えることができませんでした。



STAFF @ SHOIN 03

長門 裕明 さん

大阪樟蔭女子大学
生活協同組合 専務理事

ながとひろあき ●長崎県出身。1987年大学生協に就職。京都・滋賀・奈良の各大学生協での勤務を経て、2011年6月から大阪樟蔭女子大学に勤務。趣味は読書で、愛読書は池波正太郎の「鬼平犯科帳」や有川浩の本など。



「学生さんは全員が生協の組合員で、いわば生協のオーナーです。お店作りに自分たちの声を生かせる場なので、ぜひ一緒にもっと利用しやすい生協を作っていけたらと思います。」

**オーナーは学生たち
その成長を見守ることが楽しみ**

購買部と食堂部から成る大学生協の責任者として、閑屋・小阪の両キャンパスを歩き来している長門さん。業務内容は多岐にわたり、お店が混雑していればレジに立つこともあります。

「キャンパスごとに特徴があつて、小阪の購買部には白衣やカット練習用のマネキンなども置いています。閑屋では児童学科の学生さんが元気でですね。子どもの歌を歌いながら元気にお店に入ってきたりもしますよ」

食堂では、学生のメニューの選び方が偏っている上に量が少なくと感じることもしばしば。今の自分自身のためにも将来お母さんになった時のためにも、若いうちからきちんとした食事をとってほしい。そのために生協では、安全で安心な食材を提供することを基本としています。

生協には学生で作る生協委員会があり、1・2年生12・13人の委員が新入生歓迎会や食生活相談会といったイベント運営などに携わっています。

「学生さんと生協を結ぶ彼女たちと一緒に、どういう風に生協を作っていこうかと常に考えています。生協委員は、全国の大学生との交流を図ったり、大人ともほぼ対等な立場で接することができます。貴重な機会が多い場でもあります。それらを通して、学生さんが成長していくのをそばで見守ることができるのは、とてもうれしいです。学生とのかかわりは、長門さんにとっての大きなやりがいにつながっているからです。」

